

Thank you from OMACHI

大町町から、ありがとう

全国各地から寄せられたたくさんの支援。大町町の復興はそんな数多の思いから成し遂げられつつあります。

ここでは、多くの分野に渡り活躍された支援団体について紹介します。



被災地の「人」「もの」「お金」 「情報」の支援を調整

Q. 実際に行った災害支援活動について教えてください。

A. 私たちの主な支援活動は、物資や人的支援など被災地で必要な支援を調整することです。

令和3年8月豪雨では、コロナ禍で県外からの一般ボランティアの受け入れの制限が余儀なくされました。そこで県外からの支援団体を受け入れるため、SPFでガイドラインを作成し、発災から1、2日で県外の支援団体が支援に入れるよう調整役として支援をしました。

Q. 支援をするなかで印象に残った出来事を教えてください。

A. 令和元年の豪雨災害の際も支援をさせていただきましたが、今回は2度目の被災という人たちも多



《From》 佐賀県佐賀市

佐賀災害支援プラットフォーム (SPF)
(NPO法人つなぎレンガ座 所属)

みやちか ゆきこ
宮近 由紀子さん

く、「この地で住み続ける」といった前回の被災のときは違った住民の皆さんの決断の重さを感じました。それがすごく印象に残っています。

また最近では、被災地区以外の地域住民の皆さんが率先して炊き出しや支援に携わるなど、地域内での共助が増えてきたことがとても嬉しいですね。

Q. これから求められる「災害への備え」について教えてください。

A. もちろん、これから先災害がないことが一番ですが、今回被災されたことをきっかけに、自分や家族が最小限の被害で済むように防災、特に備えについて向き合ってください。



《From》 東京都

認定NPO法人全国災害ボランティア
支援団体ネットワーク (JVOAD)

みょうじょう てつや
明城 徹也さん

支援活動の調整機能としての役割

Q. 団体について教えてください。

A. 東日本大震災では、多くのボランティアや支援団体が駆け付けましたが、事前の連携体制や支援の全体像が把握できず、現地での調整が困難な状況でした。私たちの団体は、そんな東日本大震災の経験を踏まえて、被災地で求められる「連携・調整」の機能を果たすため設立しました。

Q. 実際に行った災害支援活動について教えてください。

A. 佐賀災害支援プラットフォーム (SPF)さんのサポート役として、支援団体間の調整や被災者・被災地域のニーズと支援のギャップの把握など、コーディネートの役割をさせていただきました。

Q. 支援をするなかで印象に残った出来事を教えてください。

A. まずは、発災直後に大町町がCSO連携室を設置され、他団体との調整が円滑に進めることができました。

また私たちが目指す姿として「抜け・漏れのない被災者支援」を掲げていますが、なかなか実際の災害現場では、どうしても抜け・漏れが出てしまうのが現状です。そんななか、大町町はCSOと地元、行政がタッグを組んで被災者支援にあたられ、支援拠点にいられていない人たちにもヒアリングを行うなど「抜け・漏れのない被災者支援の体制」をはじめ実感する支援活動だったのがとても印象に残っています。